

ASBJ Newsletter



目次

1. 企業会計基準等の開発（2008年8月1日～10月16日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第158回～第160回）
3. IASB及びFASFに対するASBJのコメント（2008年8月1日～9月30日）
4. ASBJプロジェクト計画表の更新
5. 「社内発生開発費のIFRSのもとでの開示の実態調査」を公表
6. IASBとの第8回定期共同会議を開催
7. David Tweedie IASB議長等と市場関係者との懇談会を開催
8. JICPA/ASBJ共催セミナー「IFRSの現状と世界の動向」を開催
9. EFRAGとの意見交換のための協議を開催
10. Stig Enevoldsen EFRAG議長等を招いた円卓会議を開催
11. 各国基準設定主体会議（NSS会議）に西川委員長他が参加
12. 世界基準設定主体会議（WSS会議）に西川委員長他が参加
13. 日本会計研究学会第67回大会においてASBJセッションを開催
14. プロジェクト進捗（2008年10月1日現在）
15. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

1. 企業会計基準等の開発（2008年8月1日～10月16日）
- 2) 【ED】[実務対応報告公開草案第28号「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い（案）」](#)の公表（2008年10月16日）
なお、本公開草案へのコメント募集期間は10月23日までとなっています。
- 1) 【Final】[「棚卸資産の評価に関する会計基準」（改正企業会計基準第9号）](#)の公表（2008年9月26日）

【凡例】

- DP：論点整理・検討状況の整理
ED：公開草案
Final：会計基準/適用指針等（最終）

2. 企業会計基準委員会の概要(第158回～第160回)

1. 第158回(2008年8月7日開催)

- a. 棚卸資産専門委員会における検討状況
- b. 退職給付専門委員会における検討状況
(国際会計基準審議会(IASB)へのコメント対応)
- c. 金融商品専門委員会における検討状況
(IASBへのコメント対応)

a. 公開草案に対するコメントを受けての文案の検討が行われました。

後入先出法(LIFO)の廃止に対しては、後入先出法は費用収益対応のための適切な評価方法の1つである等、否定的なコメントが多く寄せられました。しかし、会計基準の国際的なコンバージェンスへの取り組みの観点から、後入先出法廃止の方向で議論は進められました。

この他、後入先出法の廃止に伴う影響の取扱いについて、剰余金の調整項目として取り扱うことも検討されました。しかし、保有利得が純利益に計上されることなく利益剰余金を増加させるという処理がクリーン・サープラス関係を崩してしまうことから否定されました。

b. 及び c. 国際会計基準審議会(IASB)から公表されている論点整理の紹介と専門委員会での検討の状況が報告されました。

2. 第159回(2008年8月28日開催)

- a. 棚卸資産専門委員会における検討状況
- b. 退職給付専門委員会における検討状況
(IASBへのコメント対応)
- c. 金融商品専門委員会における検討状況

(IASBへのコメント対応)

- d. 基本概念ワーキング・グループにおける検討状況 (IASBへのコメント対応)

a. 第160回委員会での改正会計基準の公表議決を前に文案の検討が行われました。

公開草案では、保有損益相当額に関する情報を注記することについては妨げられないとしていましたが、当該情報は、IR情報として提供すべき類のものであり、基準化には相応しくないといった意見が出されました。

b. IASBの論点整理は、給付建約定の積立状況の変動を遅延認識せずに即時認識すること、退職後給付の分類を従来の「拠出建制度及び給付建制度」から「拠出ベース約定及び給付建約定」に変更し、公正価値で評価することの2つを内容としています。これらの点に対して、クリーン・サープラス関係の維持や現在のキャッシュ・バランス・プラン、その他日本で採用している退職給付に係る会計処理の方法が大きく変わる事となる等の観点から議論が行われました。

c. IASBの論点整理は、金融商品の複雑性を低減することを目的とし、長期的には金融資産の全面公正価値測定を、中間的なアプローチとしても長期的な測定目的に沿うように公正価値で測定する金融商品を増やすという考えを示しています。この点についての議論が行われました。

d. IASBの公開草案は、概念フレームワークの改訂作業を全体を通じて検討するのではなく、細かなフェーズに区切って結論を出していく方法を取っているため、全体としての整合性が保たれない等の問題点があ

ることが示されました。

3. 第 160 回 (2008 年 9 月 18 日開催)

- a. 改正企業会計基準第 9 号「棚卸資産の評価に関する会計基準」【公表議決】
- b. プロジェクト計画表の更新
- c. 退職給付専門委員会における検討状況 (IASB へのコメント対応)
- d. 金融商品専門委員会における検討状況 (IASB へのコメント対応)
- e. 基本概念ワーキング・グループにおける検討状況 (IASB へのコメント対応)
- f. 公開草案『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正 (案)』に対するコメント (無形資産に係る部分)
- g. 公開草案「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準 (案)」及び同適用指針 (案) のコメント

a. 棚卸資産の評価方法について検討してきましたが、後入先出法を廃止することを内容とする「棚卸資産の評価に関する会計基準」の改正公表が議決されました。平成 22 年 4 月 1 日以後開始する事業年度から適用されますが、早期適用も認められます。

b. ASBJ での今後の会計基準等の開発予定を示したプロジェクト計画表の更新についての議論が行われました。新しいプロジェクト計画表は、平成 20 年 9 月 19 日に公表されています。

c. 給付建約定の変動の即時認識への反対、拠出ベース約定の負債を公正価値で評価すること及びその際の信用リスクの織り込みへの反対等を含んだコメントの最終報告が行われました。コメントは、平成 20 年 9 月 26 日付けにて IASB へ提出されています。

d. 公正価値評価に係る未解決の問題が多く残されていること、業績とは考えられない公正価値の変動が純利益に含まれてしまうこと等を理由に全面的な公正価値評価導入への懸念を表明したコメントの最終報告が行われました。コメントは、平成 20 年 9 月 19 日付けにて IASB へ提出されています。

e. コメントに係る最終報告が行われました。コメントは、平成 20 年 9 月 26 日付けにて IASB へ提出されています。

f. 公開草案に対するコメントの紹介が行われました。今後、専門委員会及び委員会で対応が検討されます。

g. 公開草案の内容から大きな内容変更を求められる意見はありませんでしたが、賃貸等不動産の範囲の明確化や重要性に係る判断基準の明確化を求める意見等がありました。今後、専門委員会及び委員会で対応が検討されます。

3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2008 年 8 月 1 日～9 月 30 日)

- 1) ディスカッション・ペーパー「資本の特徴を有する金融商品」に対するコメントを提出 (2008 年 9 月 5 日)
(ディスカッション・ペーパー「資本の特徴を有する金融商品」の概要は[こちら](#))
- 2) ディスカッション・ペーパー「金融商品の財務報告における複雑性の低減」に対するコメントを提出 (2008 年 9 月 19 日)
(ディスカッション・ペーパー「金融商品の財務報告における複雑性の低減」の概

要は[こちら](#))

3) [ディスカッション・ペーパー「IAS 第 19 号『従業員給付』の改訂に係る予備的見解」に対するコメント](#)を提出 (2008 年 9 月 26 日)

(IAS 第 19 号『従業員給付』の改訂に係る予備的見解の概要は[こちら](#))

4) [公開草案「財務報告の概念フレームワーク改訂案 第 1 章 財務報告の目的及び第 2 章 意思決定に有用な財務報告情報の質的特性及び制約条件」に対するコメント](#)を提出 (2008 年 9 月 26 日)

(公開草案「財務報告の概念フレームワーク改訂案 第 1 章 財務報告の目的及び第 2 章 意思決定に有用な財務報告情報の質的特性及び制約条件」の概要は[こちら](#))

5) [討議資料「財務報告の概念フレームワーク改訂案に関する予備的見解 報告企業」に対するコメント](#)を提出 (2008 年 9 月 26 日)

(討議資料「財務報告の概念フレームワーク改訂案に関する予備的見解 報告企業」の概要は[こちら](#))

4. ASBJ プロジェクト計画表の更新

企業会計基準委員会 (ASBJ) は 2008 年 9 月 19 日、昨年 12 月に公表したプロジェクト計画表を近時の情勢を踏まえ、更新しました。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

5. 「社内発生開発費の IFRS のもとでの開示の実態調査」を公表

研究開発費については、我が国ではすべて発生時に費用処理が求められており、一定の要件を満たす開発費について資産計上を強制する IAS38 号とは取扱いが異なっています。ASBJ では、コンバージェンスに向けた検討作業の一環として、特に社内発生開発費の重要性が高いと考えられる産業を中心に、IAS38 号のもとでの欧州企業における開示の実態調査を行い、公表しました (レポートは[こちら](#))。

6. IASB との第 8 回定期共同会議を開催

ASBJ と IASB は、2008 年 9 月 8 日～9 日の 2 日間にわたり、ロンドンの IASB オフィスにて[第 8 回共同会議](#)を開催しました。ASBJ からは西川委員長、新井常勤委員及びスタッフ、IASB からは Tweedie 議長、McGregor 理事、山田理事及びスタッフが参加しています。なお、今回からテレビ会議システムを通じて東京からも委員及びスタッフが参加しました。



当日の会議のスケジュール及び議題は以下の通りです。

日時	議題
9月8日 午前	1.個別プロジェクト①（公開） ・金融商品（現行基準の置換え） ・概念フレームワーク
9月8日 午後	2.個別プロジェクト②（公開） ・退職後給付 ・負債と資本の区分
	3.今後の協力体制について
9月9日 午前	4.IASBの活動のアップデート
	5.ASBJの活動のアップデート

上記の4つの個別プロジェクトに関しては、IASBから公表されているディスカッション・ペーパー及び公開草案に対するASBJのコメント案について議論を行いました。

今後の協力体制については、IASBでの基準開発に積極的に参画するためのASBJからの派遣スタッフの増員を含めた両者の連携の強化について話し合われました。

IASBの活動のアップデートでは、8月14日に公表された作業計画について、新基準及び主要プロジェクトを中心に説明がありました。また近く、2006年2月に公表されたFASBとの覚書(MOU)のアップデート版を公表することも述べられました。



ASBJの活動のアップデートでは、ASBJ側から、昨年12月のプロジェクト計画表に

示された各項目の進捗状況について説明し、両日本基準と現行の国際財務報告基準

(IFRS) の間の重要な差異（同等性評価に関連する2005年7月欧州証券規制当局委員会(CESR)によるもの)に関する2008年末までのコンバージェンス・プロジェクトが予定通りに進んでいることを確認するとともに、9月19日に公表予定のプロジェクト計画表の更新案の説明を行いました。

次回の共同会議は、2009年3月に東京にて開催する予定です。

7. David Tweedie IASB 議長等と市場関係者との懇談会を開催

2008年9月25日朝、来日中のDavid Tweedie IASB議長とJohn Smith IASB理事及び山田辰己IASB理事と市場関係者の懇談会が東京のパレスホテルにて開催され、約60名が出席しました。

会議は、Tweedie 議長の講演とその後の質疑応答という形で行われました。まずTweedie 議長から、IFRS をとりまく世界の動向等について大要、以下のような説明が行われました。

- ✓ 昨年はアジアでのIFRS導入の動きが顕著でした。1月には中国でIFRSベースの基準の導入し、3月には韓国が2011年からIFRSのフルアドプションを公表しました。そして8月には日本の「東京合意」がありました。
- ✓ IFRSの採用に際しては、一語一語そのままアドプションするのが理想的だと思います。その際、各国の基準の承認の仕組みについても留意する必要があります。

ります。

- ✓ 2011年までに9つの主要なプロジェクトを終える計画ですが、それぞれが完全に方向性が固まっているわけではありません。日本の意見を早い段階から聞くことで、十分時間を掛けて必要な検討を行うことができると思います。
- ✓ 信用危機によって北米やヨーロッパはかなりの打撃を受けています。その中で会計に関していえば、特に公正価値測定と連結について疑問が呈されており、この点についてより深い検討が必要です。
- ✓ MoU 項目であるリース、収益の認識、財務諸表の表示、公正価値測定ガイダンス、負債と資本、年金、といったプロジェクトについても進めていく必要があります。
- ✓ 各国の設定主体、特に ASBJ のような強力な設定主体には開発を手伝って貰いたいと思います。今後も協力を期待しています。



質疑応答では、ルールベースからプリンシプルベースへの移行についての考え方や、会計基準の実体経済活動に及ぼす影響等に

ついて IASB メンバーと率直な意見交換が行われ、双方の理解に資したものだと思われます。

8. JICPA/ASBJ 共催セミナー「IFRSの現状と世界の動向」を開催

2008年9月25日、日本公認会計士協会（JICPA）と ASBJ の共催によるセミナー「IFRSの現状と世界の動向」が、公認会計士会館にて開催されました。

本セミナーは、米国での IFRS 採用に向けた動きが活発化する昨今、IASB や ASBJ の最近の活動や今後の取り組みなどについて、IASB と ASBJ のトップから直接説明することによって、国際的な会計基準のコンバージェンスについて幅広い理解と関心を高めていくことを目的としたものです。

セミナーは、David Tweedie IASB 議長と西川郁生 ASBJ 委員長の両名に加え John Smith IASB 理事の3名から、講演が行われました。プログラムは、以下のとおりです。

講演内容	講演者
1. 世界規模で広がる IFRS の採用	Sir David Tweedie IASB 議長
2. IASB プロジェクトの概要及び主要な論点	John Smith IASB 理事
3. コンバージェンスに向けた ASBJ の今後の取り組み	西川郁生 ASBJ 委員長

当日の会場は、400人を超える参加者で埋め尽くされました。その中、まず、



Tweedie 議長からは、IASB の最近の取り組みの概要、そして、今後、IASB として日本、特に ASBJ に対してどのようなことを期待しているのかが説明されました。さらに、米国での IFRS 採用に向けた新ロードマップ案の公表採択など直近の動きに対する IASB の見解等についての説明も行われました。

続いて、Smith 理事から、IASB が現在取り組んでいる個別の主要プロジェクトの概要が説明されました。また、米国 SEC の動きについても Tweedie 議長の説明を補足する説明が行われました。



最後に西川委員長からは、コンバージェンスに向けた ASBJ の今後の取り組みについて、特に 9 月 19 日に公表した新プロジェクト計画表の概説が行われました。また、日本の IFRS 適用問題について私見を交え

た説明も行われました。

各講演終了後に行われた質疑応答のセッションでは、米国の IFRS 採用へ向けた動きの読み解き方やヨーロッパにおける個別財務諸表への IFRS 適用の実情、あるいは公正価値オプションの会計処理等について、予定された時間枠一杯まで各講演者とセミナー参加者との間で熱心に質疑応答が行われました。

9. EFRAG との意見交換のための協議を開催

2008 年 9 月 22 日、[欧州財務報告諮問グループ \(European Financial Reporting Advisory Group EFRAG\)](#) の Stig Enevoldsen 議長と Paul Ebling テクニカルディレクターは、ASBJ を訪問し、最近の活動状況及び各種論点について協議を行いました。ASBJ からは、西川委員長をはじめ多くの研究員が参加しました。

協議では、まず、ASBJ から、昨年公表した IASB との間の東京合意の概要及び 9 月 19 日に公表した最新のプロジェクト計画表を説明しました。

続いて、Enevoldsen 議長から EFRAG の最近の活動状況、特に最近の金融危機への対応関係及び IASB との MoU 項目に関する協議などの解説が行われました。

その後、テクニカルな論点についての協議に移り、まず、負債と資本の区分について、IASB のディスカッション・ペーパー「資本の特徴を有する金融商品」に対して [ASBJ](#) と [EFRAG](#) がそれぞれ作成したコメントレーターをベースに意見交換が行われま

した。

次に ASBJ が 9 月 22 日に公表した「[IFRS における社内発生開発費の開示の実態調査](#)」について報告が行われ、意見交換が行われました。

協議全体を通じて、各種論点に対するアプローチの共通点・相違点を含め EFRAG と ASBJ の相互理解が深まりました。最後に西川委員長と Enevoldsen 議長が、このような意見交換の重要性を再確認して協議は終了しました。

10. Stig Enevoldsen EFRAG 議長等を招いた円卓会議を開催

ASBJ は、2008 年 9 月 22 日、EFRAG の Stig Enevoldsen 議長と Paul Ebling テクニカルディレクターを招き、EFRAG の役割と最近の活動を日本の市場関係者に紹介し、意見交換を行う円卓会議を東京のパレスホテルにて開催しました。会議には、会計士協会、財務諸表の作成者・利用者、金融庁などから約 40 名が参加しました。

会議は、西川 ASBJ 委員長の挨拶に続いて、Enevoldsen 議長による「EU の財務報告」と題した講演が行われました。講演では、EU における EFRAG の役割及び最近の活動内容について説明が行われました。また、近時の金融危機に関連して会計が直面している問題や、米国 SEC の動向が IASB あるいは欧州に与える影響など、タイムリーな話題についても EFRAG の見解が披露されました。

その後、参加者との質疑応答に移り、欧州における IFRS 導入プロセスに関する評

価、加盟国が多数に上る EFRAG における意見形成プロセス、今後の活動方針など、多岐にわたる積極的な意見交換が行われ、参加者にとって大変有意義な会議となりました。



11. 各国基準設定主体会議(NSS 会議)に西川委員長他が参加

2008 年 9 月 10 日、パリにて各国基準設定主体会議(NSS 会議)が開催されました。

NSS 会議は、旧リエゾン国等の各国会計基準設定主体の主催のもと、各主体が行っている研究プロジェクト、IASB のプロジェクト・作業計画に対するインプット及びサポートなどを議論する会議として、毎年春と秋の 2 回開催されているものです。

今回の会議は、英国 ASB のイアン・マッキントッシュ委員長が議長を務め、旧リエゾン国からは米国以外の日本、英国、カナダ、ドイツ、フランス、オーストラリア及びニュージーランドが、さらに、欧州財務報告アドバイザーグループ (EFRAG)、韓国、台湾、香港、マレーシア、インド、サウジアラビア、イタリア、スウェーデン、ノルウェー、ルーマニア、チュニジア、南アフリカ、メキシコの会計基準設定主体及

びIASB、[国際公会計基準審議会 \(IPSASB\)](#)が参加し、40名ほどの会議となりました。

ASBJからは西川郁生委員長、豊田主任研究員及び石原研究員が出席しています。

議題と担当割（括弧内）は以下のとおりです。

1. 開会
2. [IASB の作業計画](#)、[IASCF の定款レビュー](#)、[ベストプラクティス文書](#)（英国 ASB）
3. 無形資産（オーストラリア AASB、日本 ASBJ）
4. [概念フレームワークフェーズ B: 構成要素及び認識（負債の定義）](#) (IASB)
5. [連結](#) (IASB)
6. 複雑な金融商品（フランス CNC）
7. 税金（ドイツ DRSC、英国 ASB）
8. 前回の議題の報告：
測定、IFRS2、非連結財務情報、退職給付制度（英国 ASB、フランス CNC、カナダ AcSB、ニュージーランド FRS）
9. 閉会

無形資産のセッションでは、ASBJの「[社内発生開発費の IFRS のもとにおける開示の実態調査](#)」が、オーストラリア AASB によるディスカッション・ペーパーのドラフトとともに、アジェンダ・ペーパーとして配布されました。しかし、今回の会議では、本実態調査の内容を紹介する時間がなかったため、次回の会議にて改めて ASBJ からプレゼンテーションを行う予定です。

12. 世界基準設定主体会議（WSS 会議）に西川委員長他が参加

2008年9月11日と12日、ロンドンで[世界基準設定主体会議（WSS 会議）](#)が開催されました。WSS 会議は、IASB が世界各国の会計基準設定主体との意見交換のため毎年秋に開催されています。

今回の WSS 会議は、50 数カ国から 100 名近くが参加しています。日本からは ASBJ の西川郁生委員長、秋葉主席研究員及び豊田主任研究員が出席しました。なお、遠藤 FASF 常務理事及び新井 ASBJ 委員も一部のセッションを傍聴しました。

議題は以下のとおりです。

- 9月11日；
 - David Tweedie IASB 議長のスピーチ
 - 連結
 - ◇ テクニカル・アップデート (IASB)
 - ◇ 小グループに分かれての議論
 - ◇ 小グループからのフィードバック
 - IFRS の適用
 - ◇ IFRS の利用 (IASB)
 - ◇ IFRS のコンテンツの配布方法 (IASCF)
 - ◇ 米国の動向のアップデート (FASB)
 - ◇ IFRS に関するオーストラリアの経験
 - ◇ 各国からのコメント（インド、マレーシア、韓国、カナダ、東・中央・南アフリカ会計士連盟 (ECSAFA) イスラエル、

日本、チリ)

- IFRIC 及び年次改善のアップデート
- 9月12日；
 - IASB の今後の計画及び優先事項 (IASB)
 - プライベート企業向け IFRS (案) の適用－南アフリカの経験
 - プライベート企業向け IFRS に関するテクニカル・アップデート (IASB) 及び質疑応答
 - IFRS に関するテクニカル・アップデート (IASB) 及び質疑応答
 - 小グループに分かれての議論
 - ◇ 負債と資本の区分
 - ◇ 金融商品の財務報告における複雑性の低減
 - ◇ 財務諸表の表示
 - ◇ 収益認識

IFRS 適用のセッションでの日本からのコメントは、西川 ASBJ 委員長から、これまで欧州の同等性評価対応もありコンバージェンスに取り組んできたこと、9月19日にプロジェクト計画表の更新版を公表し、IASB と FASB の覚書 (MoU) に記載されているプロジェクトについて積極的に取り組むことなどを説明しています。

13. 日本会計研究学会第 67 回大会において ASBJ セッションを開催

2008年9月9日、立教大学池袋キャンパスで開催された日本会計研究学会第 67 回大会において ASBJ セッションを開催しました。当該セッションでは、逆瀬副委員長、市原専門研究員及び小堀研究員より、「企業

会計基準委員会の最近の活動状況」をテーマとして報告を行いました。

セッションは、齋藤真哉横浜国立大学大学院教授の司会のもと、初めに逆瀬副委員長より、我が国の企業会計を取り巻く最近の状況及びそれを受けての ASBJ のコンバージェンスに向けての取組みを説明しました。具体的には昨年 8 月の「東京合意」の内容及び昨年 12 月公表のプロジェクト計画表の位置付け、さらには IASB 及び FASB との連携に関する ASBJ の取組みについて説明しました。

続いて市原専門研究員より EU による同等性評価に関連した「短期項目」及びそれ以外の差異に係る「中期項目」についての基準開発状況、小堀研究員より IFRS と FASB の間で改訂された MoU に関連するプロジェクト項目に関して予想される議論の内容とそれに関連した ASBJ の活動予定について、それぞれ説明を行いました。



会場は多数の学会会員で埋まり、また、ASBJ からの説明の後には我が国における IFRS 受入の動向や ASBJ の活動の方向性に関してなどについて質疑応答が交わされるなど、ASBJ の取組みに対する学会会員の方々の関心の深さを伺わせるものとなりました。

14. プロジェクト進捗（コンバージェンス関連項目） 2008年10月1日現在

	2008年 7-9月	2008年 10-12月	2009年 1-3月	2009年 4-6月	2009年 7-9月	2009年 10-12月	2010年
1. EUによる同等性評価に関連するプロジェクト項目（短期）							
企業結合（ステップ1）	Final						
棚卸資産（後入先出法）	<i>Final</i>						
固定資産（減損）							
無形資産（仕掛研究開発）	Final						
退職給付（割引率）	<i>Final</i>						
投資不動産	Final						
2. 既存の差異に関連するプロジェクト項目（中期）							
企業結合（ステップ2: フェーズ2関連）						DP	ED
企業結合（ステップ2: のれんの償却）						DP	ED
無形資産							DP
過年度遡及修正（会計方針の変更等）				ED		Final	
廃止事業				DP		ED	Final
3. IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目（中長期）							
連結の範囲				DP		ED	Final
財務諸表の表示（包括利益等）				DP		ED	Final
財務諸表の表示（フェーズB関連）				DP			
収益認識				DP			
負債と資本の区分							
金融商品（現行基準の見直し）				DP			
金融商品（公正価値測定）				DP			
退職給付				DP			
リース							
4. IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目（中長期）							
1株当たり利益	専門委			ED		Final	
引当金	専門委				DP		ED
保険							

【凡例】

WG ワーキング・グループ設置

専門委 専門委員会設置

RR 調査報告（Research Report）

DP 論点整理・検討状況の整理（Discussion Paper）

ED 公開草案（Exposure Draft）

Final 会計基準/適用指針等（最終） なお、斜体文字は終了イベント

15. お知らせ

1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 22 号（好評
発売中）

【主な内容】

- ✓ 特集 1：“企業再編にかかる会計基準・
適用指針の公開草案の全容”
- ✓ 特集 2：“グローバル・コンバージェン
スの潮流”
 - “会計基準の国際的なコンバージ
ェンスに関する米国の視点” …
Bob Herz FASB 議長/Micheal
Crooch FASB ボードメンバー
 - “評議員会議長に就任して－
IASCF の当面の課題－” …Gerrit
Zalm IASCF 評議員会議長
 - “EU 同等性評価の今後と展望”
…黒澤利武 証券取引等監視委員会事務局証
券検査課長
- ✓ Accounting Square：“銀行と企業会計
制度” …杉山清次 全国銀行協会会長
- ✓ CFO Letter：“内なる公平な観察者”
…高野直人 帝人株式会社専務取締役 CFO

「四半期報告書の作成要領（平成 20 年 9 月第 2 四半期提出用）」

本書は、FASF 内に設置された「有価証
券報告書等開示内容検討会」における議論
の結果等を反映し、作成しています。本年
8 月に行われた四半期報告書関連の府令等
の改正も反映し、また、第 2 四半期特有の
開示に関する留意事項・記載事例も記載し
ていますので、第 2 四半期報告書作成のご

参考にして頂けるものと考えています。

これらの刊行物は、[こちら](#)からお求め頂
けます。

“ASBJ Newsletter”（第 5 号）

2008 年 10 月 20 日発行

発行：企業会計基準委員会／財団法人 財務会計基
準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人：丸山顕義

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：publicity@asb.or.jp

Fax：03-5510-2712